

## 巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報基盤本部 公開日: 2013-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鎌田, 弘之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/16022">http://hdl.handle.net/10291/16022</a>

## 「Informatics Vol.6」の発行にあたって

情報基盤本部長 鎌田 弘之

この度、情報基盤本部の機関誌「Informatics Vol.6」を発行することになりました。また私は本年度より情報基盤本部長を拝命しており、これらを併せ、ご挨拶申し上げます。私は、2003年から2007年まで、旧情報科学センターの研究専門部会長および生田担当副所長を拝命し、久しぶりに本学の情報部門に戻ることとなりました。当時の同所長でいらした下坂陽男理工学部教授および阪井和男法学部教授にはご指導、ご鞭撻を賜りましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

さて、私が旧情報科学センターを去り本部長に着任するまでの5年間、本学の情報に関わる基幹設備や組織体系は大きな変貌を遂げております。私自身はその5年間、情報設備等の一人のユーザとして変化を実感しながら過ごしてきたわけですから、変化への対応はできておりますが、その変化の必要性については、本部長着任後に深く実感させられております。情報機器の急激な進歩やコンセプトの変化、情報サービスの多様化と高度化、情報セキュリティへの対応と利便性の追求などなど、ときにトレードオフの関係になるもののバランスを判断する必要に迫られております。それらに対応しながらさらに先を模索して努力されてこられた前情報基盤本部長村田潔商学部教授および本部スタッフ各位には、心より敬意を表します。

今後、情報基盤本部がテーマとして追及すべきことは、継続性と効率性にあると考えます。これまで定期的に繰り返してきた情報システムのリプレイスについては、適性を考慮しながらその一部を外部クラウドサービスに展開し、安定運用を図るべき時代に入っています。本学の教職員および学生は、学内外の区別なく、必要な情報や自分の情報資産へのアクセスが容易になる方向で施策したいと考えます。また、本学各情報組織の垣根を越えてシステムの高効率化を図れば、全学システムの簡素化が実現するとともに可用性が高まります。その結果、例えば災害が発生した後にもスムーズにシステムを復旧できるシステムのレプリカ作成が容易になるものと考えます。さらに、無線LANの多人数同時アクセスを想定したネットワークの充実と教育環境の整備、プロキシに代わる情報セキュリティの実現と運用などは、喫緊の課題です。

一方、情報にかかわる教職員組織の機能を高度化することも重要です。現在、情報にかかわる本学組織は、必要性にしたがって複数に分割されていますが、互いの情報共有については必ずしも十分であるとは考えていません。各組織間の連携と機能強化とを課題にし、より良い組織の在り方について検討しています。基盤本部が発行するこの Informatics も、学術論文のみならず、より幅の広い読者に向けた技術提供と情報共有の場となるよう、コンセプトを変更する予定です。

基盤本部長を拝命した私として、これら変化にブレーキをかけるつもりは全くありません。情報基盤本部は、より多くの情報を学内外に発信・提供できる組織になるよう努めてまいります。